

宮川源流・大杉谷の「木々とシカとの共生」を求めて ～ボランティア実施～

大台ヶ原一帯では、トウヒなどの樹木がニホンジカの食害を受け、森林の衰退が進んでいます。三重森林管理署では、平成12年から毎年、ボランティアを募集して、ニホンジカによる樹皮剥ぎを防ぐために木にネットを巻く作業に取り組んでいます。

今年度は、10月4日（土曜日）に、正木ヶ原に接する大杉谷国有林最上部で実施しました。

今回は、宮川流域の地域の方にも参加していただくため、大台町を集合場所としました。その結果、宮川流域の方に加えて、三重県内外の計16名の方に参加いただきました。

当日は台風が接近していましたが、現地は珍しく爽やかな晴天。トウヒとヒノキを対象に4班に分かれてネットを巻き付け、参加者は手慣れた様子で作業も順境にはかどりました。太い樹木も根際まで丁寧に施工していただき、200枚のネットを使い、約50本の立木を保護することができました。

